

投資銀行ビジネス

投資銀行業務は、法人のお客さまに対する市場型間接金融*1やアセットファイナンス*2、社債や株式発行による資本市場の活用等高度な資金調達手段の提供や、M&A・証券化といった多様な金融ソリューションを提供する業務です。

SMFGは、三井住友銀行の投資銀行部門および大和証券SMBC(株)をはじめとするグループ会社の投資銀行業務ノウハウを結集し、お客さまの多様なニーズにお応えするソリューションを提供します。

平成15年度上期においては、三井住友銀行のシンジケートローンやプロジェクトファイナンス、大和証券SMBC(株)の新規公開引受や債券引受等さまざまな分野で成果を上げました。また、デットIR*3活動を通じたシンジケートローン市場の育成・整備にも注力しています。

今後も市場型間接金融、アセットファイナンスのベストプレーヤーを目指すとともに、大和証券SMBC(株)を中心とするグループ会社との連携強化により総合的ソリューション提案能力を一層高めていきます。

*1市場型間接金融とは、財務内容が公開され、市場での評価が確立可能な借入人に対して、証券ではなくシンジケートローン等貸金(間接金融の手法)を使って市場性の資金調達を行うものです。

*2アセットファイナンスとは企業のバランスシートの資産から生じるキャッシュフローを裏付けとした資金調達方法です。

*3デットIRとは債権者(貸出金融機関、社債投資家等)や格付機関に対して行うIR活動です。

【具体的成果】

- 国内シンジケーション組成額(三井住友銀行)前年同期比15%増加
- デットIRバンクミーティング(三井住友銀行)21件実施
- IPO引受会社ランキング(大和証券SMBC)1位(日経公社債情報より)

【今後の施策】

- 市場型間接金融業務、アセットファイナンスの一層の推進
- M&A、証券化等の先端金融サービス提供力の強化

企業再生ビジネス

SMFGは三井住友銀行の戦略金融部門を中心として、企業再生ビジネスに積極的に取り組んでいます。

企業再生ノウハウ、投資銀行的手法、会計法務等の専門スキルを有する人材を戦略金融部門に集中し、取引先の再建や事業再編・不良債権のオフバランス化を積極的に進めました。これにより、平成15年度上期において、三井住友銀行の開示債権額を約1兆4,000億円削減し、平成16年3月末の目標としていた不良債権残高3兆9,000億円を前倒し達成することができました。

さらに、企業再生ビジネスに本格進出するために、国内外を代表する投資銀行等と提携し、手法の異なる複数の企業再生スキームを構築しました。(詳細はトピックスの6ページをご参照ください。)これにより、取引先企業の実態に応じて最適な方策を活用する体制が整いました。

今後は、引き続き銀行本体で取引先企業の再建や事業再編に取り組むとともに、上記の企業再生スキームや産業再生機構・整理回収機構等の政府系機関等を積極活用し、不良債権問題の早期完全決着を図ります。

こうした企業再生への取り組みの狙いは、一義的には不良債権残高の削減にあります。その先には企業再生ビジネスを新たな収益事業として確立していくとともに、

企業再生ビジネスを通じて取得したスキル・ノウハウを今後の新規業務に活かしていくという展望があります。企業再生への取り組みが数年後の銀行間の優劣を決するとの認識のもと、今後ともこれらの新しい動きに積極的に関わっていきます。

【具体的成果】

- 不良債権残高の大幅削減
 - ~平成16年3月末の不良債権残高目標(3兆9,000億円)を半年前倒しで達成
 - ~取引先企業の収益力強化・財務リストラを支援し債務者区分の上方遷移を実現
 - ~担保不動産売却等により、早期の再生が困難な取引先の過剰債務解消を支援
 - ~債権売却等によるオフバランスの着実な実施
 - ~貸出条件正常化、リスクリターン改善への取り組みを強化
- 企業再生スキームの構築
 - 企業再生合弁会社・債権買取ファンド、デイスターファンド等を設立し、企業再生の支援体制を強化

【今後の施策】

- 各種企業再生スキームを活用し不良債権残高削減を一層加速化
- 企業再生ビジネスの収益事業化